

第5次食育推進基本計画の策定に 向けての意見

香川県宇多津町立宇多津北小学校
教頭 赤松美雪

第4次食育推進基本計画までの 子供(学校における)食育の推進

- 「朝食を欠食する子供の割合」:朝食欠食率を0%
- 学校給食における地場産物使用割合:
 - 品目数ベース:30%以上→金額ベース:維持向上
- 国産食材使用割合(2次~):
 - 品目数ベース:80%以上→金額ベース:維持向上
- 栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数(4次):月12回以上

地域と連携した食育の推進

- 農林漁業体験
- 産地や生産者を意識した食品の選択
- 環境に配慮した食品の選択
- 食品ロス削減のための行動
- 伝統的料理の継承

第4次~:SDGsの観点から相互に連携して総合的に推進
→第5次の計画にも引き続きSDGsの観点

香川県の学校における実態と取組み①

令和6年度児童生徒の食生活等実態調査

引用文献:香川県教育委員会、令和6年度児童生徒の食生活等実態調査のまとめ 令和7年3月
https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/15173/250327_jittaityousa6.pdf
 (2025年8月1日)

調査の概要

- 期日:令和6年6月
- 対象:栄養教諭等配置の小・中学校、特別支援学校の小学校第5学年、中学校第2学年(有効回答数 小学5年生2264人、中学2年1332人)
- 方法:1人1台端末を用い、香川県電子申請システムにより児童生徒がアンケート



図3 問3 毎日朝食を食べますか

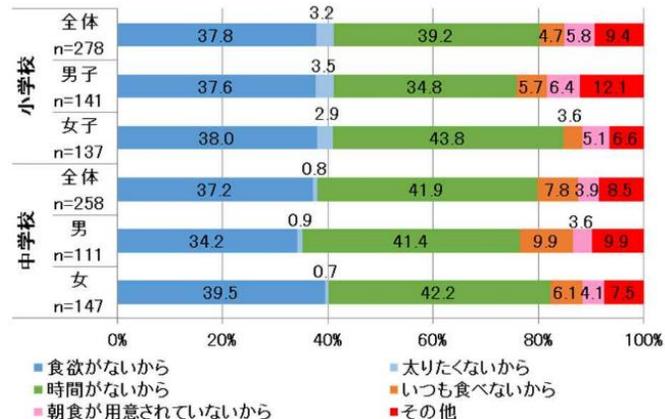


図4 問4 朝食を食べない理由は何ですか

香川県の学校における実態と取組み② 令和6年度児童生徒の食生活等実態調査

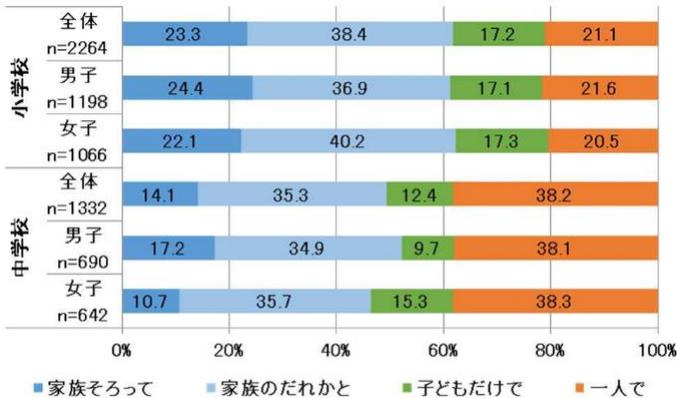


図5 問5 朝食はだれと食べる人が多いですか

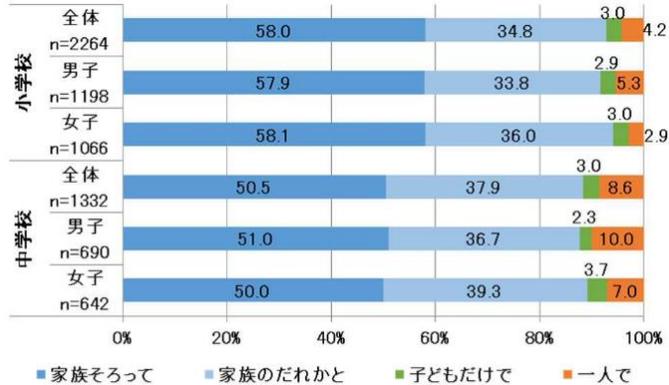


図7 問7 夕食はだれと食べる人が多いですか

表4 朝食共食との関連

	食事のあいさつ (する、しない)	不定愁訴		食事が楽しい (いつも、それ以外)	前向きな姿勢 (いつも、それ以外)	野菜摂取 (5皿以上、4皿以下)	好き嫌い (なし、あり)	郷土料理 (知っている、知らない)	地場産物 (知っている、知らない)
		だるさや疲れやすさ	やる気が起こらない						
小学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○
中学校	○	○	○	○	×	○	×	○	○

○: χ^2 検定により、有意差有

表5 夕食共食との関連

	食事のあいさつ (する、しない)	間食・夜食	不定愁訴		食事が楽しい (いつも、それ以外)	前向きな姿勢 (いつも、それ以外)	野菜摂取 (5皿以上、4皿以下)	好き嫌い (なし、あり)	郷土料理 (知っている、知らない)	地場産物 (知っている、知らない)
			だるさや疲れやすさ	やる気が起こらない						
小学校	○	×	○	○	○	×	×	○	×	
中学校	○	×	○	○	×	○	○	○	×	

2 朝ごはんを食べてよう

3 3分プラスだけ増やそう

11 朝晩文房を飲まよう

9 思案をしよう

1 みんなで楽しく食べよう

香川県の学校における実態と取組み③ 令和6年度児童生徒の食生活等実態調査

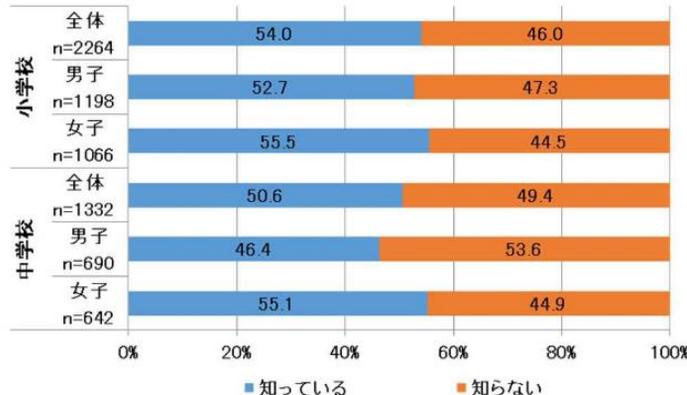
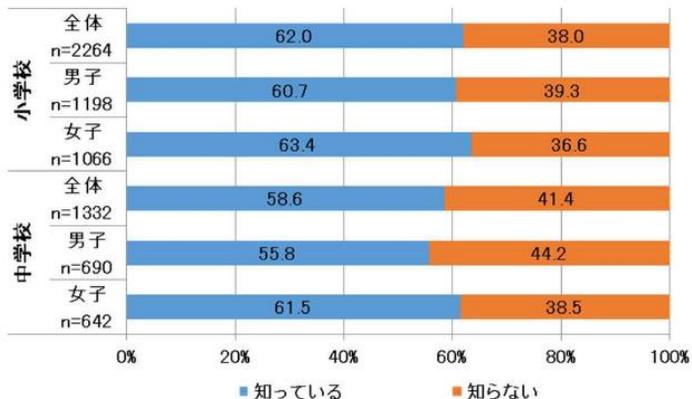


図 21 問 21 香川県の郷土料理を知っていますか

図 23 問 23 地場産物を知っていますか

表7 郷土料理、地場産物の認知との関連

		調理体験 (毎日または1週間に数回、 1か月に数回、しない)	食事の手伝い (毎日から1週間に2 ~3日まで、しない)	野菜摂取 (5皿以上、4皿以下)
郷土料理 (知っている、 知らない)	小学校	○	○	○
	中学校	○	○	○
地場産物 (知っている、 知らない)	小学校	○	○	○
	中学校	×	×	○

○: χ^2 検定により、有意差有



香川県の学校における取組み④

引用データ:香川県栄養教諭・学校栄養職員研究会研修資料(香川県教育委員会指導資料)より

県内の学校給食における地場産物使用率(%) (金額ベース)



年度	R3	R4	R5	R6
地域産	5.3	5.9	5.5	6.0
県内産	44.4	43.6	44.6	43.8
小計	49.7	49.5	50.1	49.8
国内産	35.3	35.9	35.3	35.7
輸入	15.0	14.6	14.6	14.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

- * データソース:地場産物活用状況調査
- * 年間使用割合(県内栄養教諭等の全配置施設の給食実施全日数)
- * 第4次かがわ食育アクションプラン(R3~7年度)の目標:県内産割合の維持向上



地域と連携した体験活動を行っている小学校の割合(%)

ベースライン:R2	R6	目標:R7
77.5	90.7	100.0

- * 対象:県内全小学校
- * データソース:学校給食及び食育実態調査

高校における食育教室の実施数



給食献立に取り入れた郷土料理の年間回数



香川県の学校における取組み⑤

小中学校における小児生活習慣病予防健診

訂正
10月1日に発表した小児生活習慣病予防健診結果の概要
の中の結果の考察について、正誤表のとおり訂正します。

令和6年10月1日、令和6年12月4日
健康福祉総務課 健康づくり・糖尿病対策グループ
担当者：遠山、南部 (3364、3365)
電話：087-832-3273

**令和5年度
小児生活習慣病予防健診の結果(概要)がまとまりました。**

引用文献:香川県健康福祉部健康政策課
令和5年度小児生活習慣病予防健診の結果
(概要):

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/documents/50192/houdouteisei.pdf>

1 健診の目的
小児生活習慣病のハイリスクの子どもの早期発見と児童・生徒及び保護者に対して効果的な健康教育を実施し、将来の生活習慣病の発症を予防する。また、小児生活習慣病予防健診結果をもとに、子どもの生活習慣病の実態を把握し、今後の改善策や予防策を検討するための基礎資料とする。

2 健診の概要

対象	小学校4年生	中学校1年生
参加事業者	17市町、香川大学教育学部	14市町、香川大学教育学部
参加人数	6,989人	2,933人
調査項目	身長、体重	
	血液検査(糖代謝、脂質、肝機能に関係する8項目) HbA1c、総コレステロール、LDLコレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、AST、ALT、γ-GTP	
	生活習慣調査(食事、運動、睡眠、家族歴等に関する17項目)	

3 主な結果

- ◆小学校4年生
 - 検査結果について
 - ・肥満傾向(男子15.8%、女子11.6%)、瘦身傾向(男子2.4%、女子2.1%)
 - ・脂質異常(男子10.3%、女子11.7%)
 - ・脂肪肝リスク(男子4.4%、女子2.3%)
 - 増加傾向にある生活習慣
 - 食事(夕食後の間食を毎日食べる、食事で気をつけている項目が少ない、孤食の機会がある、いつもおなかいっぱい食べる)
 - 運動(情報メディア等の利用時間が2時間以上、徒歩による通学時間が20分以下)
 - 男女共に肥満傾向(肥満度20%以上)と関連がみられた生活習慣
 - 食事(はやく食べる、野菜摂取が少ない、朝食を食べない日が多い、おなかいっぱい食べる、果物を食べない)
 - 運動(情報メディア等の利用時間が長い)
- ◆中学校1年生
 - 検査結果について
 - ・肥満傾向(男子12.7%、女子9.3%)、瘦身傾向(男子3.0%、女子4.4%)
 - ・脂質異常(男子9.4%、女子9.9%)
 - ・脂肪肝リスク(男子6.5%、女子1.9%)
 - 増加傾向にある生活習慣
 - 食事(お腹いっぱい食べる、孤食の機会がある、朝食を食べない日が多い)
 - 運動(情報メディア等の利用時間が2時間以上)
 - 男女共に肥満傾向(肥満度20%以上)と関連がみられた生活習慣
 - 食事(「適正体重になるように食べる」の該当が少ない)
 - 運動(有酸素運動及び筋力トレーニングの回数が少ない、情報メディア等の利用時間が長い)

栄養教諭等による指導

- 事前:学級活動等での対象学年への指導
- 事後:期末懇談等を利用した結果を基にした個別指導

かかりつけ医による二次検診

FHが疑われる小児を大学・基幹病院で精査

※中学校1年生の健診は受診生徒が県全体生徒数の約4割であったため、健診結果は県全体を示すものではありません。
また、令和3年度から新たに1実施主体が対象に加わり令和元年度及び2年度では対象が異なります。
※血液検査に異常値がみられたものでも、ただちに治療が必要であることを意味するものではありません。
将来、生活習慣病にならないために、健診をきっかけに生活習慣の見直しを呼びかけます。

実態・取組みや中間フォローアップ、論点整理から

実態
取組み

中間フォローアップ、論点整理

次期計画

- ④ 家庭における食育の推進（現状・課題）
生涯にわたって、心身の健康の増進と豊かな人間性を育む
地域における食育の推進①（論点）

自ら食を選び始める世代の食生活の向上を目指し、大学等での学びの機会

学校、保育所等における食育の推進（論点）

学校関係者の意識の向上を図ることが重要

高校生、
大学生をター
ゲットにした食育
推進

特に未来の教員
に対しての食育
推進

- ② 家庭における食育の推進（現状・課題）
共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることは、食や生活に関する基礎を伝え、習得する機会にもなる

- ① 「朝食を欠食する子供の割合」が増加

子供にとって、大
事なことは誰と
食べるかという
視点
0%でなく、現実
的な目標設定

- ④ 「第4次食育推進基本計画」フォローアップ 中間取りまとめ34ページ
校内食育推進体制の整備や、学校運営協議会の仕組みの活用、学校と家庭・地域との連携・協働の下、体験活動、料理教室、給食試食会等の取組

地域協働活動の
充実

- ③ 「第4次食育推進基本計画」フォローアップ 中間取りまとめ36ページ
学校給食等での郷土料理等の更なる導入、次代への食文化継承

具体的な目標が
あってもよい

- ⑤ 学校、保育所等における食育の推進（現状・課題）
児童生徒の心身の成長や健康の保持増進にとどまらず、食や農への興味や関心を高める

例) 第4次の目
標④の子供版